

いきいき農業高校 第18回



北海道剣淵高等学校

一 学校概要

旭川市から国道四〇号線を北に五〇km進んだところに剣淵町があります。剣淵町は「絵本の里」として広く知られるようになりました。この町にあるのが剣淵高校です。剣淵高校は、町立の総合学科で昭和二十六年に設置されてから令和二年に七十周年を迎えました。

本校は、「農業国際系列」「生活福祉系列」「未来のしんろ系列」の三系列を開設しています。「農業国際系列」では、地域農家や関係機関と連携した農業教育を開催し、作物・野菜・草花・加工を中心とする学習を行い、農業経営者及び関連する産業に従事する者として必要な能力と態度を育てています。「生活福祉系列」では、国家資格である介護福祉士の受験資格を得ることができ、高齢化社会

を担う心優しい使命感を持った人材育成に尽力しています。「未来のしんろ系列」は、令和三年に設置された新しい系列です。未来のしんろ系列では、教科の縦断的・横断的な教育と探究学習により持続可能な地域や産業の発展に寄与できる人材を育成しています。本校のカリキュラムでは、一年次の前期において、各系列の概要を学び、後期には各系列に分かれて本格的な学習を進めていきます。

二 農業国際系列での 教育活動紹介

本校で取り組んでいる農業教育について紹介します。

(一) 農業視察研修（一年次）

上川総合振興局主催「地域とコラボ！」

本校の一年次生を対象に農業視察を実施しています。本校の生徒は非農家の生徒が大半を占めていますが、農業に興味を持つものも多く、この事業を通して農業の次世代を担う意欲的な人材の確保・育成を図っています。一日目程で上川管内の農業生産者や農業関連の施設を訪問し、事業主から農業への思いや実践的な経営



について説明を受け将来に役立てます。

(二) 農業出前講座（一年次）

旭川開発建設部が主催する、北海道および上川の農業生産と地域開発の基礎的な知識・教養を深めることを目的とした出前講座を受講しています。上川の農業基盤である土地改良の現状を理解するた



め岩尾内ダムや頭首工、堆肥製造施設などを見学し、見聞を広める学習を展開しています。

(三) 町内農家委託実習（一年次）

農業後継者なりびに農業理解者の育成を充実させるため、科目「総合実習」のなかで剣淵町内の農家の「協力により、五日間の委託実習を実施しています。普

段高校の農場では経験できない実習や農家の方々との対話のなかで、農業に対する理解や



を深化させる教育効果の高い実習となっています。特に地域との結び付きが強まる実習となっています。

(四)

【資格取得講習会 溶接特別教育修了、アーク



農業関連産業に携わるために必要な技能向上させるため、溶接を中心とした知識や技能を習得し、産業人としてのス

キルアップを図る講習の受講を実施しています。北海道立農業大学校で開講している農業研修に参加し、資格を取得しています。なお、この授業に係わる受講経費（受講料、宿泊代金）は、剣淵町から全額支給されています。

(五) 産業現場実習 (三年次)

個々の生徒の進路意向に沿った職種での就業体験を通して、進路意識の向上と実際の就業



路に即した実習を五日間体験できる」とから、生徒達も真剣に取り組み、進路選択の上では重要な位置づけとなる実習です。

多くの農業高校が行っているように、本校でも販売会活動を実施しています。一年次生全員および二年次の農業国際系列の生徒を対象に販売活動に取り組みます。主な参加販売会は、「旭川食べマルシェ」「けんぶら道の駅販売会」、「農業高校食彩フェア」等で、地域に密着した活動となるよう、参加体制を工夫しています。生徒達は、日頃の学習の中で生産された野菜などの農産物をお客様に販売することで、実習の達成感や成就感を感じ、学習効果を高めることに繋がっています。

なお、本校には学校としては珍しい「無人販売所」を併設しています。学校の進

れています。本校でも林業が盛んな下川町の森林組合にご協力をいただき、木炭

を調達。その木炭を細かく砕いて畑に入れる活動を毎年行い、その取り組みを実践しています。木炭に吸着されている一酸化炭素を土中に埋めて大気中に放出させない取り組みで、二・三年次生の農業国際系列の授業で実施し、生徒は地球環境に優しい取り組みを試行・調査しています。



で生産された野菜苗や花壇苗を始め、収穫された野菜なども販売しています。時間に左右されることなく、自慢の野菜類を提供できるため、多くのお客様から好評をいただいています。

(七) 環境教育

温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルが注目さ



(八) スマート農業研修

ロボット技術や情報通信技術（ＩＣＴ）を活用して、省力化や精密化を図り高品質生産を実現するスマート農業の導入が



進められています。本校でも、地元JA北ひびきや農業機械メーカーのご協力を仰ぎながら、本校園場で、その実演研修を行っています。今年度は、ドローン講習会を行い、実際に使われているドローンを飛行させ、農場に農薬を散布するデモンストレーションを実施しました。生徒達が実際に見聞することで、スマート農業の重要性を感じ取ることができると組み合っています。

(九) 名古屋コーチンの飼育と

地域未利用資源の活用

令和三年八月より名古屋コーチンを飼育しています。現在飼育している鶏舎や柵も授業の中で製作しました。鶏の飼料は全て地域で未利用となつている資源を有効活用したものです。町内の学校給食センターや保育所、福祉施設の給食等から出される汁の搾りカスや道北の漁協



からいただいたホタテや牡蠣の貝殻、また、近隣農家からいただいた米ぬか、そして本校の農場から出る規格外で販売できない野菜などを与えています。また、剣淵町はキヌアの栽培面積が日本一であり、その生産の中心となっているけんぶちキヌア生産普及組合から、キヌアの精

からいただいたホタテや牡蠣の貝殻、また、近隣農家からいただいた米ぬか、そして本校の農場から出る規格外で販売できない野菜などを与えています。また、剣淵町はキヌアの栽培面積が日本一であり、その生産の中心となっているけんぶちキヌア生産普及組合から、キヌアの精

の繋がりを深めています。現在国内での飼育自給率は約10%とされ、飼料のほとんどが輸入に頼っている現状があります。輸入飼料に頼らず、自給飼料での養鶏を図ることで、持続可能な循環型農業を目指すことができ、鶏の飼育を通して今後の農業の在り方を考えるよい教材となっています。

(十) 小学校、中学校との連携学習

剣淵高校は町立の高校といつゝこともあります。現在飼育している鶏舎や柵も授業の中で製作しました。鶏の飼料は全て地域で未利用となつている資源を有効活用したものです。町内の学校給食センターや保育所、福祉施設の給食等から出される汁の搾りカスや道北の漁協

製過程で選別され商品になりなかつたキヌアをいただき給餉しています。

出向き農業の授業を開催しています。さらに、中学生が卒業式に装飾するため本校の温室で花の鉢植えをし、鉢花作りも行っています。農業を通して、本校生徒と児童生徒と一緒に係わる活動を行い、コミュニケーション能力や人に教える力、伝達力などを向上させています。



三 終わりに

本校のスクールミッションは「持続可能な未来の担い手づくり」です。将来を担う人材として生徒が探究心を持ち、たくましく生きる力を育てていきたいと指導に努めています。そのためにも、農業のもつ多面的な教育力を十分に活用し、そこから生徒一人ひとりが多様性を尊重しながら自立・共生の心を育み、この学び舎を築立っていくけるよう今後も農業教育を充実、発展させていきたいと考えています。

執筆・写真提供は、田畠雄一教諭に
担当いただきました。

